

# 地域を元気に

## 中頓別コミュニティレストラン

中頓別町の11人が参加した1泊2日のコミュニティレストラン道内先進事例の見学ツアー一行が、2日目の昨年12月11日に訪れたのは登別市の地域食堂「ゆめみ〜る」。

「住民自身で地域の課題を解決しようというのが店の始まりです」。運営するNPO法人の山田正幸事務局長は、一行にそう説明を始めた。

発端は、登別市社会福祉協議会が2005年に市地域福祉実践計画策定のため行ったアンケートで、食堂があ

### ④ 集い、憩い、支える

る幌別鉄南地区の課題が浮き彫りになったこと。同地区は高齢化が著しく、「高齢者、子育て中の母親、障害者らの居場所がない。人と話す機会がない。買い物に行きたくても足がない。この三つが地域の課題だと分かった」と山田事務局長。そこで地元町内会を中心に約30人でNPOを設立して08年11月に開店。1階の食堂では、



登別市の地域食堂ゆめみ〜るを訪れた中頓別からの見学ツアーの一行

者らに安否確認を兼ねた昼・夕食の配食サービスもしている。

全国でもコミレス数が多い道内だが、これほど多機能で地域福祉を幅広く担う例はまれ。課題解決型のお手本とも言える。

「一つの施設でこれだけの役割を果たしていることに驚いた」「中頓別でも、世代を超え気軽に集まれる場所があると良い」「子連れでもくつろげる井戸端

の一行からはそんな声が上がった。

中頓別で町の委託を受けコミレスを開設する公衆浴場・黄金湯の経営者渡辺由起子さんは「ゆめみ〜るの例からも、地域の課題やニーズを把握することは大切。町ともしっかり連携したい」と語る。そのためには「コミレス運営協議会といったものを組織したい」とも付け加えた。また

構想段階だが、町や町民らに参加してもらい、運営方針を決めたり応援団になってもらうための組織だ。

渡辺さんは「こうした協議会などを通じ、マチの声に耳を傾けながら運営を進めることで、私たちのコミレスの公共性を高められたらいいですね」と話している。

## マチの声に耳傾けて

そばや野菜中心のヘルシーな「特製定食」などを提供し、お茶だけ

飲みに来ても良い。2階は、子育て中の主婦や高齢者が自由に集え

るサロンで、放課後児童クラブなども開設。地元産品の朝市や高齢

会議の場が良い」「中頓別で目指す方向が見えた」。後日、中頓別